

児童の日記に見られる述べ方について(Ⅲ)

—— N. W. 児の3年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して ——

岡 利 道

A Study of the Expression of a School Child's Diary (3)

—— With Special Reference to the First Sentence of N. W' Diary
who Attends the Third Grade ——

Toshimichi Oka

1. 研究の目的と計画

これまでの報告¹⁾でも触れているが、研究の目的とその計画についてここで今一度示し、本報告の位置づけを明確にしておきたい。

研究の目的は、以下の通りである。児童の自然な書きことばのすがたがあらわれたものとして、日記というものを捉える。まず、一児童の6か年の日記における述べ方の実態を調査していくことにする。その上で、書く内容の盛り上がりを規定するものは何かを探っていきたいと考える。

研究の計画の全体像を、以下のように考えている。

- [A] N. W. 児の小学校6か年の日記における冒頭部分の述べ方についてまとめる
1年生(報告済) 2年生(報告済) 3年生(本報告) 4年生 5年生 6年生
- [B] N. W. 児の小学校6か年の日記の全体的な構成という面での述べ方についてまとめる
1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生
- [C] 総括をする(他児童の日記との比較もまじえながら)

2. 研究の概要

(1) 3年生時における作文指導の実際

担任が男性教諭(当時40歳)にかわった。取材によれば、おおよそ次のような指導がなされていたようである。

日記についての指導と国語の教科書における作文単元の指導とは緊密に関連させてはいなかったようである。日記を書くにあたっては、

- 日付、題を書くこと
- 内容は自由とする
- 「先生あのね～」という書き出しの表現は用いない

といったことが4月当初のところで確認されている。これまでに引き続いて、毎日書くように指導されており、提出されたものについては短いコメントをつけて返却されている。特に内容面・表記面について細かい指導はなされていない。

国語科における作文指導は、教科書の作文単元に沿って行われた（教科書は光村図書版を使用している）。他の先生よりとりわけ変わった指導はしていないが、学習中に見つけたことや、学習の感想を書くといったいわゆる学習作文は大切にしたいとのことである。担任の専門教科であった理科の学習では、特に多くそうした作文を書かせており、従って国語教科書中の作文単元では、9月に配当されている「大事なことをきちんと」²⁾という単元に時間が多くとられ、指導がなされている。日記への影響も少なからずあるため、その単元の概略を示しておくことにしたい。

2部構成となっており、第1部はイントロダクション、第2部は作例である。第1部では、まず、身の回りの虫の中から一つを選び、観察したことを横書きで書くという、観察記録の学習をする旨が説明される。次に、手順が示される。おおまかにまとめると、次の三つになる。

○メモにとって→・日付、曜日、天気、気温

（メモの一例 ・体の特徴（形・色・大きさ・仕組み）

も示されてい ・動き・鳴き方・鳴き声・食べ物

る） ・不思議に思ったこと、面白いと思ったこと

○本で調べて→・疑問に思ったこと、詳しく知りたいことを事典・図鑑で調べる

○大事なことを→・図や表を入れて

落とさないで ・本で調べたことは、観察したことや思ったことと区別して

・書く事柄毎に、小見出しをつけて

第2部では、ある男子の観察記録の例が載せられている。文章の部分だけを引用する。

ダンゴムシのかんさつ

山田 友一

調べた日

9月18日（木曜日） 晴れ 23℃

つかまえた場所

庭の石の下。しめった所。

体のとくちょう

体はふしで分かれていて、ちょっと指でさわるだけで、すぐだんごのようにまるまってしまう。それで、この名前がついたんだと思った。

図かんで調べて、正式な名前は「オカダンゴムシ」ということが分かった。カニと同じなかなまだそうだ。

体の色は、うす黒くてつやがあり、プラスチックのようなかんじだ。

体の長さは、1.2 cm あった。

虫めがねで調べたら、足は、大きいふしの左右に1本ずつ、全部で14本あった。

ダンゴムシの動き方

歩くのは、意外にはやい。はこの中に入れると、すぐすみに行って、それから、ふちにそってぐるぐる回りだした。そのうちに、すみで止まって、そのままじっとしていた。

どこかにかくれようとしているのだと思って、今度は、はこの中に石をおいてみた。すると、石にそって一回りしてから、その下にもぐろうとした。

ダンゴムシは、くらくてしめった所がすきだと本に書いてあったが、そのとおりだと思った。

児童の日記に見られる述べ方について(Ⅲ)

事実や思いを単刀直入に、そして簡潔に、といった述べ方がなされている。文末は、「～だ」形である。担任は、学級の子どもたちにこのような形式で学習作文を書く経験を多くさせている。事実を鋭く見つめることを、そして思ったままのことを素直に述べることを大切にされたのである。2年間の担任期間において、その姿勢はN. W. 児に徐々に浸透していったものと思われる。

(2) N. W. 児の3年生時の日記に見られる冒頭部分の述べ方

標記のことを整理するにあたり、N. W. 児の3年生時の日記に見られる冒頭部分を一覧表化し、基礎資料とした。それを以下の①で示し、それをもとに見出したことを②から後のところで示す。

それに先立って、表(基礎資料)中の記号等についてのおおまかな説明をしておきたい。左の項から順に説明する。

- No.→通し番号。3年生時は、575から729までである。即ち155日分の日記を取り上げたということである。
- 月日→平成元年の4月5日から平成2年の1月4日までである。
- 題→日記に題をつけている場合は記すことにする。3年生時では、すべて題がつけられている。
- 第1文→冒頭部分の文表現である。N. W. 児の表記通りに表した。誤字・脱字等をそのまま示したことは、N. W. 児のその時の心理状態や発達の様を、よりリアルに理解できると判断したことによる。
- 文数→その日の日記のセンテンス数である。
- 総字数→その日の日記におけるすべての表現を、音節の合計数としてまとめた。例えば、日記中に「白」という表現があれば、1字とカウントするのではなく、「しろ」の2字としてカウントしていくのである。

① 結 果

表1 基礎資料

No.	月	日	題	冒 頭 部 分 の 表 現	文数	総字数
575	4	5	ゴミばこのわけかたのこと。	今日の朝、たたの先生が、ビニールとかをいれるゴミばこを、もってきて、みんなで、くべつをしたよね。	4	269
576	4	6	たかおくんのこと。	わたしは3年生になって、たかおくんと、おとなりになりました。	4	131
577	4	7	入学しきのこと。	今日は、入学しきでした。	4	152
578	4	8	○虫さされのこと。	きのう入学しきが、おわたたら、足のもの下のへんが、かゆくてみてみたら、かに、さされたみたいになていました。	3	172
579	4	9	けんけつのこと、	おかあさんが、いちばたのところで、けんけつを、しました。	4	133
580	4	10	きゅうしょくのこと、	わたしは、きゅうしょくとうばんでした。	3	136
581	4	11	雨のこと、	今日は、1日じゅう雨の日でした。	5	136
582	4	12	けん道のこと、	わたしは、三年生に、なったから、けん道を、はじめました。	3	141
583	4	13	けん道のこと、	わたしは、けん道を、ならいはじめて、いちにんまえに、なると、ようふくもいるけど、わたしは、1りっこだから、おふるもないから、かわないと、いけなかったけど、	2	155

				おかあさんのともだちのこどもも、けんどうをならって、1つのこってるのがあって、その1つを、もらったよ。		
584	4	14	六校時、	今日は、5校時と、6校時は、図工でした。	4	136
585	4	15	おりがみ、	夜、おりがみを、ひさしぶりに、おりました。	4	129
586	4	16	おりがみ、	きのう、おとうさんに、かえるのつくり方を、おしえてもらいました。	4	111
587	4	17	とやお先生のこと、	5時間目の社会で、とやお先生とべんきょうすることになって、今日は、じこしょうかいだけでした。	4	174
588	4	18	ひこうきのこと、	このごろ、男の子が、ひこうきをつくって、あそんでいるけど、みんな、むちゅうになって、休みじかんと、べんきょうのじかんのくぎりがついてなくていけないね。	1	86
589	4	22	しゅがくりょこう、	今日は、たの先生が、かえてくる日でした。	4	93
590	4	23	かしはくのこと	今日から、かしはくが、はじまります。	4	95
591	4	24	ベクタンこと	このごろ、ベクタンが、はやってきて、みんな、むちゅうになっているよ。	3	138
592	4	25	かくこと、	このごろすこしづつかくことが、なくなってきました。	2	74
593	4	26	かえるのこと	このごろ、夜、夕がたになると、かえるのなきごえが、きこえてくるよ。	3	81
594	4	27	日記	きのう日記を書くのを、わすれてて、今日の朝かいたけど、こんなことでもいいのと思ったよ。	6	120
595	4	28	そうじのこの	教室そうじで、ルーレットみたいなのを、つくることになって、佐々木くんが、そうじ時間に、グループをきめるから、みんなあつまってと、かってなことを、いっていました。	2	217
596	4	29	花、(しぜんのこと)	ふくしまの、帰りに、けいさつのかんしゃのところで、かわった花を、みつけました。	5	152
597	4	30	中村先生のこと、	だいこんしまへいきました。	3	93
598	5	1	こうつうあんぜんのこと	5 6時間目に、こうつうきょうしつがありました。	2	80
599	5	2	しん山	春のえんそくでした。	4	109
600	5	3	日記	3年生になってから、あのねちょうが日記にかわりました。	3	78
601	5	4	海	たぎのおばあちゃんのところに帰りました。	4	103
602	5	5	はまほうふう	たぎのおばあちゃんたちと、ほうふをとりに行きました。	6	145
603	5	6	雨	ひさしぶりに雨がふりました。	5	95
604	5	7	たうえ	学校へ行く道に、たんぼが1つあるんだけど、そこのたんぼがたうえをして、そこは、きかいでやっているよ。	4	161
605	5	8	ふしぎ、	ひふかのびょういんにいきました。	6	138
606	5	9	算数のこと	4時間目の算数でさいしょは、ずっとまえのしゅくだいのこたえあわせをして、せつめいのところの大しまくんのところでいろいろ、やり方がでて、つまっていたけど、わたしが、いちばんやりにくいと思ったのは、大しまくんのやり方でした。	2	222
607	5	10	バス	けんどうで、2くみのすわさんのところへいきました。	4	135
608	5	11	花、	4月の29日土よう日の、日記に、花のことをかいて、なまえがわからなかったんだけど、ひゃっかじてんでしらべたら、たぶんウリクサだと思ふよ。	1	84
609	5	12	なぶそく、	このごろ、ぬぶそくで、あたまがよくいなくなるよ。	3	74
610	5	13	ぜんかつ、	わたしは、8ばんの、ピカピカハウスに、はいりました。	4	170
611	5	14	母の日	母の日で、わたしは、きのう、プレゼントを、かいいにきました。	3	95

児童の日記に見られる述べ方について(Ⅲ)

612	5	15	さんかん日	5じかんめは、さんかん日でした。	3	132
613	5	16	ふしぎ、	夜ごはんの時、サラダがありました。	4	130
614	5	17	(だい)	だいいいは、日記を読めばわかります。	7	144
615	5	18	本、	きのうがたんじょう日だったけどおじいちゃんに、プレゼントを、もらえなかったから、今日、かってもらうよ。	2	81
616	5	19	人の日記を読んで。	3の1だよりを、もらって、帰って、つつみさんの日記を読んだよ。	4	170
617	5	20	ステキを食べるときのきまり	5月17日が、わたしのたん生日だったから、今日、かぞくで、おいわいを、ことというステキやさんでしてもらったよ。	8	314
618	5	21	ケーキづくり、	17日のたん生日の日は、おかあさんが、しごとだったから、ケーキを、つくってもらえなかったけど17日のかわりに、今日、ケーキをつくりました。	2	177
619	5	22	ひなんくんれん、	ひなんくんれんのときに、ふくこうちょうせんせいが、「くんれんかさいはっせい。」と、いつてるけど、ほんとかじのときは、なんていうの？	5	104
620	5	23	かん字	2時間目は、理科のかわりに、国語のかん字をしたよね。	2	132
621	5	24	おわかれ会、	おわかれ会に、だしものときにわたしは、ペープサートをするんだけど、なかなか、きまらなくてペープサートが、おわかれ会のときにできそうもないよ。	1	80
622	5	25	おわかれ会のじゅん日	いよいよあしたは、やなせくんのおわかれ会だね。	7	220
623	5	26	花	ずっとまえから思っていたんだけど花には、おしべとめしべがあるみたいだけど、おしべとめしべってなあに。??	2	106
624	5	27	「し」	こないだの国語の時間に、「し」をやったね。	3	105
625	5	28	ぶどう	ちくではまやまこうえんにいつてそのとちゅうで、ぶどうえんみたいなのがあって、あおいやつもあったし、あかくなつたのもあったよ。	1	65
626	5	29	音楽	4時間目の音楽のおわりに、「ふえは、友だち」と、いう本をもらったよ。	3	99
627	5	30	アオムシ	このごろ理科でアオムシのけんきゅうをしていて、今日高尾くんちのちかくへとりに行って、わたしは、自分てみつけたから、アオムシだったけど、大きいやつだったよ。	4	209
628	5	31	さばてんの花のこと	学校から帰ったさばてんの花がさきかけていました。	3	93
629	6	1	アオムシ	たぎのおばあちゃんのところから、アオムしがいっぱいおくってきました。	3	65
630	6	2	図工	5 6時間目に、図工があったよ。	10	237
631	6	5	かくことがない	このごろあまりかくことがなくてこまっているよ。	3	68
632	6	6	本	このごろ本よみがうまくなったよ。	3	58
633	6	7	そうじのこと	そうじがおわって、まだ、3の1は、おわってなくて、まだそうじしていたら、うのくんたちが、『おまえたちがはやくやらないのがわるいんだろ?』と、さめしまはんちようにいつてはんちようないてたからわたしがかわりに、『はんちようだつてがんばって、みんなを、がんばらせようとがんばっているよ。』と、いったよ。	1	156
634	6	10	ふれあいの里	おかあさんのしごとばの人たちと、ふれあいの里に行ったよ。	2	69
635	6	11	テニス、	ふれあいの里で、テニスをしたよ。	2	63
636	6	12	しんぶん、	きがついたけど、わたし(自分)でしんぶんをつくりたいなと、おもったよ。	2	60
637	6	13	しんぶん、	きのうの日記にかいたしんぶんのことで、あしたからか今日からしんぶんをすこしずつかいていくことにしたよ。	2	78
638	6	14	いやなこと、	このごろまた、たかおくんが、「わだんごむし」と、いつてきていやだよ。	1	40

639	6	15	友だちのうち,	ふくださんちに、はじめていきました。	2	39
640	6	16	おふろ	わたしは、おふろがきらいでこまってるんだけど今日は、スパーボールをもってはいたらとってもたのしかったよ。	1	57
641	6	17	しゅう字	しゅう字の日でした。	4	90
642	6	18	はたる,	きのうしんやまのへんに、はたるをみにいって、とってもきれいだったから今日も、虫かごとかいちゅうでんをとをもっていくはずだったけど、雨がふったから、やめたよ。	1	84
643	6	19	理科	理科で、グループでべんきょうしたんだけど、わたしはさめしまさんとやってたんだけど、さいしょのぶんは、はですぎて字がよめなくなってたから2つめをつくったんだけど、2つめは、じょうずにかけたよ。	4	145
644	6	20	あさがお,	あさがおってふしぎだよ。	3	88
645	6	23	けんきゅうかい,	けんきゅうかい2かめでした。	2	66
646	6	24	チキチキバンバン,	ミュージかるがあったよ。	2	77
647	6	25	ビデオ	3じごろビデオをかりてきて、帰ってすぐ、みました。	3	50
648	6	27	は	朝こおりを食べていたら、すこしぐらぐらしているはで、がきとしてしまっ、ぬけそうだよ。	1	46
649	6	28	はがぬけた	家にかえて、ぐらぐらしているはを、さわって、ぬこうとしていたよ。	2	142
650	6	29	目の中しやしんきんぎょにもあるか、?	わたしは、じぶんがしらべてお店をしたぶんで、きんぎょもしてみた。	5	189
651	6	30	プールびらき,	わたしははいれなかったけど、プールびらきがあってみんなたのしそうだったよ。	2	76
652	7	2	目	先生がどうぶつの目をしらべてこいといってたけど、土よう日は、たぎだったから、かけなくて、今日いぬの目をみようかと思ったけど、いなかった。	1	73
653	7	4	おかあさんのたんじょう日	もうすぐ、おかあさんのたんじょう日です。	2	64
654	7	6	トマト	うしろのにわにあるトマトが、だんだんうれはじめてきたよ。	2	84
655	7	7	かくこと	このごろまたかくことがなくなったよ。	2	33
656	7	9	はなび	このあいだはなびをかってきて、きのうやりました。	3	67
657	7	11	テレビ	8時~10時までうちゅうじんのテレビをみてたよ。	10	602
658	7	12	スイカのたね,	スイカのたねは、黒と白があって、なかには、半分黒半分白のもあったよ。	3	109
659	7	14	はついくそくてい,	2時間目にはついくそくていがあってわたしは、しんちょうはあまりのびてないけど、たいじゅうはふとったよ。	3	126
660	7	15	バッタ	ほちでバッタをみつけたよ。	4	116
661	7	16	ビデオ	ながつしたのピッドのビデオをかりてきてみたよ。	3	77
662	7	24	本よみ	ひさしぶりに1時間ぐらい本よみをしました。	3	88
663	7	25	海	まえいたかんしゃの人と海に行ったよ。	3	83
664	7	26	もくそうといっきゅう,	けんどうのときに目をつぶって、いるときがあって、いっきゅうさんとかんがえるときに、目をつぶって手をあわせるっていうかかさねて考えるんだけど、けんどうもそうなの。	3	145
665	7	28	たいふう	たいふう11ごうがどっかにいるんだけど、まつえにはきてないのにたいふうがきてるみたい、なぜがつよいよ。	2	83
666	7	31	プール	プールの日だったよ。	3	67
667	8	1	けんどう,	今日から5日まで夏のなんとかげいこがあつたいへんだよ。	2	67
668	8	2	ラジオ体そう	夏休みにはいったからラジオたいそうがはじまったね、	2	63

児童の日記に見られる述べ方について(Ⅲ)

669	8	3	かけない,	このごろまた日記を書くぎょうがすくなくなったよ。	4	68
670	8	4	おかあさんのいこ	おかあさんのいこが12時ぐらいにきたよ。	3	69
671	8	5	ピアノのはっぴょう会,	だい2かいめのピアノのはっぴょう会は、ひろせさんとひいてパパはママがすきというやつで、おわたらみんながうまいようまいよといってくれたからうれしかったよ。	1	90
672	8	6	はなび	じゅんちゃんのうちにいて、しんじこからあげているはなびをみたよ。	3	65
673	8	7	くものす	くものすにあめの水がかかって、だいやもんどもたいで、とってもきれいだったよ。	2	60
674	8	8	海	おとうさんがやすみをとって海につれていってくれました。	3	89
675	8	9	ラジオ体そうのあと	こんどの14日のうりょうさいがあつて、それでラジオ体そうのあとにほんおどりをれんしゅうするんだけど男の子がまじめにしてなくていやだよ。	2	118
676	8	10	くさぬき	こんどの、のうりょうさいのために、あきちのくさとりをラジオ体そうのあとにしたよ。	4	99
677	8	11	たいよう,	朝ラジオ体そうからかえるとき、に気がついたんだけど、たいようがそらにでそうになってたんだけど、ちょっとしたで木のかげになってすきまから光がでてきれたったよ。	1	88
678	8	12	くさぬき	ラジオ体そうが今日でおしまいでつかっていたあきちのくさぬきをしたよ。	3	85
679	8	13	はやおき	まいしゅう日曜日は、なぜかはやく目がさめていつも本をよんでいるの、	3	60
680	8	14	こうし園	おとうさんが出雲しょうぎょうでこうし園をみにいったよ。	9	329
681	8	15	はなび	すこし風があつたけどはなびをしたよ。	3	53
682	8	16	かいとり	たぎのおばあちゃんのところにいて、かいとりに行こうとおもっていったら、しおがふかくてとれなかったよ。	2	66
683	8	17	はやおき	ラジオ体そうがあるときは、5時ぐらいにおきていたけど、ラジオ体そうがなくなったら、おそくおきるようになったよ。	2	68
684	8	18	はなじ,	朝の4時ごろにはなじがでたよ。	3	60
685	8	19	べんきょう,	もうあと2しゅうかんぐらいで、夏休みが終わりだね。	3	79
686	8	20	きれいなくも	夕がたの4時30分ごろに、くもをみたら、くものところにおひさまがきて、がわのところがひかりできれいだったよ。	1	65
687	8	21	くも	夕がたになってくもをみると、あかくなってとってもきれいだったよ。	2	47
688	8	24	まえのいえ,	いま、まえのいえがたてかわっているんだけど、今日一人うえからおちられた人がいて、みんなやわたしたちもびっくりだったよ。	5	259
689	8	27	べんきょう,	ひさしぶりにながいがいじかんべんきょうしたんだけど、とってもつかれたよ。	2	62
690	9	8	水えい大会,	平成元年どのすいえい大会でした。	4	151
691	9	10	おやこげきじょう,	おやこげきじょうで、三びきのがらがらんど、はれときどきぶたをみたよ。	3	83
692	9	11	かくことがない,	このごろまたかくことがなくなったよ。	2	47
693	9	不明	やくそく,	わたしは、おかあさんと、やくそくをしたことを、やぶってしまったよ。	4	114
694	9	23	ほけのみ	たぎのおばあちゃんのところに行って、にわにいったら、なしみたないなみがあつて、おじいちゃんに、「このみなあに。」と、きいたら、「ほけのみだよ。」と、おしえてくれたよ。	5	182

695	9	24	はたけ,	たぎのおじいちゃんのところのはたけにいて、くりをひろっていたよ。	5	112
696	9	25	しゅくだい,	先生しゅくだいがいっぱいあるとたいへんでいけんよ。	3	75
697	9	26	つくえの上	先生なんでつくえの上は、すぐたなくなるのかな。	6	127
698	9	27	算数のべんきょう	ひさしぶりにおかあさんと、算数のおべんきょうをしたよ。	5	129
699	9	不明	算数	1じかんめのさんすうで、かくくんが、さわいでいて、それでみんなもいっしょにさわいで、べんきょうができなかったよ。	2	90
700	10	3	バッタ	わたしが山しろくんに、あげたバッタと、山しろくんとったバッタが、おんぶバッタになったよ。	2	72
701	10	9	体育会	体育会の今日は、本ばんでした。	12	448
702	10	21	友だち,	わたしは、だいいんのかんしゃにきて1人お友だちができました。	4	101
703	10	22	かんしゃ	わたしは1人このかんしゃでいやな人がいます。	3	162
704	10	23	うらうやすこさん	どんなことをゆうかという、なつきさんともいるとかいて、わたしが、かえろうとすると、おいかけてりしてくる。	1	63
705	10	25	算数のべんきょう。	5時間目の算数のべんきょうで、みんながんばっていた、と思う。	5	171
706	10	26	算数のべんきょう。	2時間目の算数のべんきょうで、今日もみんながんばっていたと思う。	5	159
707	不明	不明	しゃかい,	5じかんめのしゃかいは、じしゅうだったけど、みんなとってもよくできていた。	2	53
708	11	12	なみだっこにさようなら	本やさんで、なみだっこにさようならという本をかいました。	5	218
709	11	16	べんきょう	かん字のいえでのべんきょうがでてやっけておもったんだけど、太郎おろぎのかん字は、すぐくむずかしいなと思ったよ。	4	128
710	11	25	全校活動	わたしは5ばんのブラバンハウスでした。	5	135
711	11	26	だいこんずけ	夕がたおばあちゃんときんじょのおばさんとでだいこんずけをしました。	4	137
712	11	27	かん字	先生わたしおもうけど先生は、かん字をみんなにまともにおしえたことがないよね。	3	109
713	11	28	休み	先生このごろ休みの人が多くなったネ。	5	93
714	不明	不明	なみだっこにさようなら	先生11月12日のわたしの日記おぼえていますか。	6	183
715	12	20	やっと冬らしい	学校に行く時に車をみたら、しろくなつて、おとうさんが「こおってるよ。」と、いったからほんとかなとおもってさわってみたらほんとにこおっていたよ。	5	249
716	12	22	冬休み	冬休みになりました。	3	75
717	12	23	こんだん,	この日うちのおかあさんはこんだんでした。	6	195
718	12	24	クリスマスイブ	この日はサンタクロースがくる日です。	4	134
719	12	25	べんきょう	ふゆやつみにはいてべんきょうをいっぱいしています。	2	47
720	12	26	べんきょう.	きょうはさんすうドリル3ページとかん字ドリル2ページしました。	2	60
721	12	27	べんきょう	きょうのべんきょうはいままでまちがえが1つしかなかったけどきょうは3つあったからざんねんです。	2	64
722	12	28	スケート	石川さんと、スケートに行きました。	3	45
723	12	29	おばあちゃんの家,	おしょうがつだから、おばあちゃんのいえに行きました。	2	60
724	12	30	もちつき	おばあちゃんの家でもちつきが、ありました。	7	152

児童の日記に見られる述べ方について(Ⅲ)

725	12	31	べんきょう	あさのうちにべんきょうをやっておいたらいいと思っていて、やったけどたいぎでなかなかすすまなかった。	2	62
726	1	1	べんきょう	このごろべんきょうがたいぎになってやりにくくなった。	2	37
727	1	2	かくこと	またこのごろかくことがなくなってきてこまっている。	2	44
728	1	3	まつえ	まつえにかえてきていえの中のおんどをみたら、3どしなくてあわててストーブをたいたよ。	2	59
729	1	4	おかあさん	おかあさんはしごとはじめだったからおひるまででかえってきました。	2	58

② 題のパターン

N. W. 児は、2年生時の途中より題をつけるということを始めている。2年生時ではかなり長い表現が見られ、N. W. 児は、題の中にその日述べたいことを象徴的に盛りこみたいという意識が旺盛であることがわかった。後半に入り、特に8月においてそのパターンが多様化した(凝ったものとなっていたが)、9月以降は「～のこと」が主流となり、その形で安定していった。それが3年生時においてどのように変化していったのかをまとめてみる。

以下、通し番号、月日、題のパターン(題における述べ方のパターン)をまとめたものを示すとともに、その実数及び初出の状況を概観していくことにしたい。

表2 題のパターン

No.	月	日	題のパターン	実数	備 考
575	4	5	(何) のこと <A>	24	初出は2年生時の5月23日(No. 328) 3年生時では前半に多く登場
584	4	14	(名詞形のパターン) 	124	この時点が初出 No. 584の場合は「六校時、」 複合名詞や固有名詞等も含める
616	5	19	(何) を(どう) して <C>	1	初出は2年生時の5月26日(No. 331) No. 616の場合は「人の日記を読んで。」
631	6	5	(文に近い形のパターン) <D>	5	この時点が初出 No. 631・No. 692の場合は「かくことがない、」(否定形) No. 649の場合は「はがぬけた」(肯定形) No. 650の場合は「目の中しやしんきんぎょにもあるか、?」(疑問形) No. 669の場合は「かけない、」(否定形)
715	12	20	(副詞) + (何) らしい <E>	1	この時点が初出 No. 715の場合は「やっと冬らしい」

2年生時においてもそうであったが、題のパターンと書く内容の盛り上がりとの厳密な因果関係はない。ここでは、3年生時における題のパターンの、計量的な意味あいでの側面を中心としてまとめをしておきたい。なお、先の表2中にアンダーラインを付したように、B, D, Eは3年生時において初めて見られたパターンである。

五つの類型に整理したのであるが、もう一步踏み込んでまとめるならば、前の二つ(A・B)が、そして後の三つ(C・D・E)が性質を同じくするのではないかと考える。2年生時ではAが主流であったが、3年生時ではBがそれにとってかわる。N. W. 児は、より簡潔な形を指

向していったのである。

一例しかないが、Eの形に注目したい。「やっと冬らしい」という題は、3年生にしてはたいへん大人びた表現である。N.W. 児の言語感覚が磨かれていく一面を垣間見た思いがする。

Dのパターンの中では、「目の中しやしんきんぎょにもあるか、?」（疑問形）が目を引く。読み手である担任教諭ならずとも、思わず引き込まれるような表現である。しかし、必ずしも総字数は多くなく、書く内容の盛り上がりとは著しい関係は見られない。

③ 総字数が多い日の題材（トピック）

これまでの報告でも触れているように、N.W. 児の日記の第1文の中には、日記全体の中身を規定し、その盛り上がりを大きく左右する要素が含まれている。他の多くの子の場合も、同様な傾向があると判断する。一般の作文でいうところの題材にあたるものが、N.W. 児の日記の第1文の中に含まれているのである。つまり、象徴的に示されているのである。

ここでは、総字数300字以上の日記の通し番号、月日、題材を列挙していくことにする。なお、その題材については、便宜上、岡が題材（上記の意味あいでの）と思われるものを簡略化して示したものである。

表3 総字数が多い日の題材

No.	月	日	題 材
617	5	20	誕生日のお祝いとして家族でステーキを食べに出かけた。そこでの様子や、母親に教わった食べる時のマナーのこと。
657	7	11	テレビで UFO や宇宙人のことを扱った番組を見た。その中で、面白いと思った内容や、自分が感激したということ。
680	8	14	父親と一緒に、甲子園の全国高校野球大会に出場した出雲商業高校の応援に行った。その途上で体験したこと。
701	10	9	雨で順延となっていたが、やっと体育会を迎えた。自分が出場した種目（30秒レース）で頑張ったことや、はらはらしながら応援した最後の種目（4色対抗リレー）のこと。

1年生時の総字数300字以上の日記は25日分であり、2年生時は9日分となり、3年生時は上記のように4日分となってしまった。あくまでも、計量的な側面を見た場合である。内容（主として第一文を手がかりとしてまとめたもの）の面では、微妙な変化が生じている。以下、その点について触れてみたい。

1年生時の総字数300字以上の日記の内容について整理したところ、おおよそ次の三つに集約することができた。

ア. 学校生活（学習）と関わりがあるもので、先生や友人、あるいは自分が力を入れて取り組むことができたときのことである

イ. 家庭生活（家族）と関わりがあるもので、自分にとってショックだったこと（アクシデントも含む）や目新しい体験などを伴っている場合のことである

ウ. 遊び（友人）と関わりがあるもので、かなり親しい友人と楽しいひとときを共有できた場合のことである

2年生時になると、その三つうち、遊び（友人）と関わりがあるもの(ウ)が全く影をひそめることになった。打って変わり、学校生活（学習）と関わりがあるもの(ア)が大きな部分を占める

ことになった。その中でも、N. W. 児が不満をもち、是非とも担任に聞いてもらいたいと願うことが現れてきたのである。家庭生活（家族）と関わりがあるもの(イ)は、全体の中で占める割合が減ってきた。これまで母親について書くことが多かったが、父親についても詳しく書くようになっていった。

この3年生時の場合、先の表中の4例では検討する資料の数としてはあまりにも少ないが、これまでの流れに位置づけてみるならば、以下になるであろう。アの流れに入るものは、No. 701の1例である。イの流れに入るものは、No. 617, No. 657, No. 680の3例である。ウの流れに入るものは、ここではない。この傾向は、2年生時と同じである。

アの流れ即ち学校生活（学習）と関わりがあるものについて補足するならば、2年生時のようなN. W. 児の不満といったマイナスの色彩は消え、自分が本気で頑張ったことや仲間の頑張りをみて感激したことといったプラス的な色彩に戻ったと捉えることができる。イの流れ、即ち家庭生活（家族）と関わりがあるものについて補足するならば、N. W. 児の行動範囲が広がっていったこと、理解能力が伸び（精神的にも成長し）て興味関心や好みが変化していったことが、その背景にあると考えられる。

④ 書き出し部分の表現

3年生時の日記の第1文のまさにはじめ（書き出し）の表現を見る。1年生時に続き2年生時においても、「先生あの子」が主流であった。3年ではそれを使わない約束になったので、様々なバリエーションが見られるようになる。本研究の目的に鑑み、ここではすべてを分析の対象としてその結果を示すことはせず、ある字数以上になっているものだけを取り上げることにし、どのような書き出しの部分の表現のときに日記の総字数が多いのかを明らかにすることにしたい。ある字数ということについて、それを300字とするならば、先の4例しかないということになるので、ここでの傾向性を割り出すには、まだ数が足りない。そこで、それを200字とするならば、13例がピックアップできる。その数ならば、ある程度の確かさをもった傾向性を見出すことができると考える。

以下、日記の通し番号、月日、書き出し部分の表現をまとめたもの示す。

表4 書き出し部分の表現

No.	月	日	書き出し部分の表現	備考（語レベルの分析）
575	4	5	今日の朝、	今日の→「 <u>とき</u> を表す語」＋の
595	4	28	教室そうじで、	教室そうじで→「教室そうじ…教室掃除をする人たちという意味の語」＋で→「 <u>ひと</u> を表す語」＋で
606	5	9	4時間目の算数で	4時間目の→「 <u>とき</u> を表す語」＋の
617	5	20	5月17日が、	5月17日が→「 <u>とき</u> を表す語」＋が
622	5	25	いよいよあしたは、	いよいよ→「副詞… <u>どんな</u> だということを表す語」その後、 <u>とき</u> を表す語」＋は
627	5	30	このごろ理科で	このごろ→「 <u>とき</u> を表す語」
630	6	2	56時間目に、	56時間目に→「 <u>とき</u> を表す語」＋に
657	7	11	8時～10時まで	8時～10時まで→「 <u>とき</u> を表す語」＋から＋「 <u>とき</u> を表す語」＋まで
680	8	14	おとうさんが	おとうさんが→「 <u>ひと</u> を表す語」＋が

688	8	24	いま,	いま→「 <u>とき</u> を表す語」
701	10	9	体育会の今日は,	体育会の→「 <u>なに</u> (この場合は行事) を表す語」+の その後に, 「 <u>とき</u> を表す語」+は
708	11	12	本やさんで,	本やさんで→「 <u>どこ</u> (場所) を表す語」+で
715	12	20	学校に行く時に	学校に→「 <u>どこ</u> (場所) を表す語」+に その後に, 「 <u>動詞…どうする</u> ということを表す語」+ 「 <u>とき</u> を表す語」+に

大体において、日にち、時間等のことを表す語即ち「ときを表す語」が顔を覗かせている。その後に、「の」「が」「は」「に」「から」「まで」という助詞を伴っている。No. 617 や No. 657 のように (いずれも総字数300字以上)、「とき」についてかなり詳しい表現 (ある特定の時間や日にち) がなされている場合、その日の日記全体の盛り上がりが見られるのである。それは、その日の日記の内容自体に、N. W. 兄の強い思いがこめられているからこそ、「8時～10時」や「5月17日」というよりリアルな表現が必然的に出てくる、と見做すこともできるであろう。

No. 701 の場合は、一般的には、「今日は体育会のほんばんでした」と記すところであろう。N. W. 兄はそれを、「体育会の今日は、本ばんでした。」としている。その要因として、雨で順延になっていたけれども、やっと迎えることができたという思いがあったことが考えられる。また、自分が出場するメイン種目である30秒レース (10名で一斉にスタートし、30秒の間に走る距離の多さを競う個人種目) に寄せる特別な思いがあったことや、自分なりに満足感があったことが作用したことも挙げられる。「ときを表す語」としての「今日」に、特別な思いを寄せた「なにを表す語」即ち「体育会」が修飾的に関わっているのである。そうした述べ方が、後に続く生き生きとした30秒レースの描写を引き出す役割を果たしたと考える。

⑤ 第1文の文末の表現

まず、文末の表現、品詞、その学年における初出月日、実数をまとめたものを掲げる。なお、※印を付した文末の表現は、1年生時・2年生時には見られず、3年生時に初めて登場したものであることを示す。

表5 第1文の文末の表現

文末の表現	品 詞	初出月日	実数	備 考
「…よね」	間投助詞+間投助詞	4/ 5	3	
「…た」	助動詞	4/ 6	57	全体中に占める割合は増加した
「…よ」	間投助詞	4/13	72	全体中に占める割合は減少した
「…ね」	間投助詞	4/18	6	
「…ます」	助動詞	4/23	4	
「…の」	終助詞	5/22	2	
「…ななに (何)」	体言止めの変形	5/26	1	
「…です」	助動詞	7/ 4	3	※
「…なの」	助動詞+終助詞	7/26	1	※
「…かな (あ)」	終助詞+終助詞	9/26	1	

児童の日記に見られる述べ方について(Ⅲ)

「…してくる」	自動詞＋終助詞＋自動詞	10/23	1	※
「…思う」	他動詞	10/25	2	
「…いますか」	自動詞＋終助詞	(不明)／(不明)	1	※
「…ている」	助動詞	1/2	1	

やはり2年生時においてもそうであったが、第1文の文末の表現と書く内容の盛り上がりとの厳密な因果関係はない。従って、ここでも計量的な側面に注目することにしたい。1年生時・2年生時に引き続いて、「…よ」が第1位、「…た」が第2位という序列関係は変わっていない。しかし、先の表の備考に記したように、割合の面では大きな変化が生じている。「…よ」の勢いが急激に落ち、「…た」の勢いが急激に増してきたのである。4年生時になると、このことはさらに進んでいくのである。

「先生あのね」という書き出し部分の表現を使わなくなったことが大きな原因であることは、疑う余地のないことである。N. W. 児自身の精神面の成長に伴い、幼児的な述べ方が避けられるようになったことも同様である。クラスがかわり、新しい担任になったことにより、前担任に寄せたほどの親近感・好意は、はじめからあるはずもない。従って、「…よ」、「…ね」という文末は、必然的に減ってくるのであろう。

⑥ 第1文の述べ方のひろがり

第1文の書き出し部分でもなく文末でもない表現、即ち途中の部分に注目してみる。N. W. 児は3年生時において、「～けど」という述べ方をよく用いている。「～けど」は、本来「～けれども」(接続助詞)であり、代表的な用法は、次の二つである³⁾。

- 活用語の終止形につき、前に述べた事柄と後に述べる事柄とが矛盾する関係にあることを表す。…だが。
- 後の句を略し言いさしにして、ためらったり相手の反応を待ったりするやわらかな表現。以下、第1文の途中に「～けど」が使われているものをまとめてみる。

表6 途中に「～けど」が使われている第1文の表現

No.	月	日	途中に「～けど」が使われている第1文の表現	備考
583	4	13	わたしは、けん道を、ならいはじめて、いちにんまえに、なると、ようふくもいるけど、わたしは、1りっこだから、おふるもないから、かわないと、いけなかったけど、おかあさんのともだちのこどもも、けんどうをならってて、1つのこってるのがあって、その1つを、もらったよ。	a a
588	4	18	このごろ、男の子が、ひこうきをつくって、あそんでいるけど、みんな、むちゅうになって、休みじかんと、べんきょうのじかんのくぎりがついてなくていけないね。	a
594	4	27	きのう日記を書くのを、わすれてて、今日の朝かいたけど、こんなことしてもいいのと思ったよ。	a
604	5	7	学校へ行く道に、たんぼが1つあるんだけど、そこのたんぼがたうえをしてて、そこは、きかいでやっているよ。	b
606	5	9	4時間目の算数でさいしよは、ずっとまえのしゅくだいのこたえあわせをしてて、せつめいのところの大しまくんのところでいろいろ、やり方がでて、つまっていたけど、わたしが、いちばんやりにくいと思ったのは、大しまくんのやり方でした。	b

608	5	11	4月の29日土よう日の、日記に、花のことをかいて、なまえがわからなかったんだけど、ひやかかじてんでしらべたら、たぶんウリクサだと思うよ。	a
616	5	18	きのうがたんじょう日だったけどおじいちゃんに、プレゼントを、もらえなかったから、今日、かってもらうよ。	a
618	5	21	17日のたん生日の日は、おかあさんが、しごとだったから、ケーキをつくってもらえなかったけど17日のかわりに、今日、ケーキをつくりました。	a
619	5	22	ひなんくんれんのときに、ふくこうちょうせんせいが、「くんれんかさいはっせい。」と、いつてるけど、ほんとかじのときは、なんていうの？	a
621	5	24	おわかれ会に、だしものときにわたしは、ペープサートをするんだけど、なかなかきまらなくてペープサートが、おわかれ会のときにできそもないよ。	a
623	5	26	ずっとまえから思っていたんだけど花には、おしべとめしべがあるみたいだけど、おしべとめしべってなあに。??	b a
627	5	30	このごろ理科でアオムシのけんきゅうをしていて、今日高尾くんちのちかくへとりに行って、わたしは、自分てみつけたから、アオムシだったけど、大きいやつだったよ。	a
636	6	12	きがついたけど、わたし（自分）でしんぶんをつくりたいなと、おもったよ。	b
640	6	16	わたしは、おふろがきらいでこまってるんだけど今日は、スパーボールをもってはいったらとってもたのしかったよ。	a
642	6	18	きのうしんやまのへんに、はたるをみにいつて、とってもきれいだったから今日も、虫かごとかいちゅうでんとをもっていくはずだったけど、雨がふったから、やめたよ。	a
643	6	19	理科で、グループでべんきょうしたんだけど、わたしはさめしまさんとやってたんだけど、さいしょのぶんは、はですぎて字がよめなくなってたから2つめをつくったんだけど、2つめは、じょうずにかけたよ。	b b b
651	6	30	わたしははいれなかったけど、プールびらきがあつてみんなのしそうだったよ。	a
652	7	2	先生がどうぶつの目をしらべてこいといつてたけど、土よう日は、たぎだったから、かけなくて、今日いぬの目をみようかと思つたけど、いなかった。	a a
659	7	14	2時間目にはつくいくそくていがあつてわたしは、しんちょうはあまりのびてないけど、たいじゅうはふとつたよ。	a
664	7	26	けんどうのときに目をつぶつて、いるときがあつて、いっきゅうさんもかんがえるときに、目をつぶつて手をあわせるつていうかかさねて考えるんだけど、けんどうもそうなの。	b
665	7	28	たいふう11ごうがどっかにいるんだけど、まつえにはきてないのにたいふうがきてるみたいに、かぜがつよいよ。	a
675	8	9	こんどの14日にのうりょうさいがあつて、それでラジオ体そうのあとにぼんおどりのれんしゅうするんだけど男の子がまじめにしてなくていやだよ。	a
677	8	11	朝ラジオ体そうからかえるとき、に気がついたんだけど、たいようがそらにでそうになってたんだけど、ちょっとしたで木のかげになってすきまから光がでてきれいだったよ。	b a
683	8	17	ラジオ体そうがあるときは、5時ぐらにおきていたけど、ラジオ体そうがなくなつたら、おそくおきるようになったよ。	a
688	8	24	いま、まえのいえがたてかわつてゐるんだけど、今日一人うえからおちられた人がいて、みんなやわたしたちもびっくりだったよ。	b
689	8	27	ひさしぶりにながいじかんべんきょうしたんだけど、とってもつかれたよ。	b
709	11	16	かんじのいえでのべんきょうがでてやつていておもったんだけど、太郎こおろぎ	b

			のかん字は、すごくむずかしいなと思ったよ。	
712	11	28	先生わたしおもうけど先生は、かん字をみんなにまともにおしえたことがないよね。	b
721	12	27	きょうのべんきょうはいままでまちがえが1つしかなかったけどきょうは3つあったからざんねんです。	a
725	12	31	あさのうちにべんきょうをやっておいたらいいと思っていて、やったけどたいぎでなかなかすすまなかった。	a

第1文全155例のうちの30例が、途中に「～けど」を含んでいる。さらにその30例の中で、「～けど」は先の表のように全体で36回使用されている。内訳は、aの用法のものが23回、bの用法のものが13回である（微妙なニュアンスを含み、区別が難しいものもあるが）。いずれの用法であれ、第1文に「～けど」を用いるということは、N. W. 児にとってたいへんな進歩である。これまでの報告でも論及しているように、N. W. 児は頭括式の述べ方を主体として日記の文章を組み立てており、冒頭に「今日こんなことがあった」という形のいわゆるトピック・センテンスを位置づけてきた。この傾向は変わらないが、第1文において「～けど」を多用すること自体、複雑な構造をもった表現を使いこなすようになった、延いては複雑な胸のうちを表出するようになった、ということの現われであろう。

aの用法に比べるならば、bの用法の方がさらに高度（複雑）であろう。冒頭に自分が中心としたいトピックを掲げながら、「～けど」を置くことによって間（一呼吸）を入れ、トピックに纏わる自分の思いをふりかえった上で、おもむろに述べたいことを出していく。そのような営みがあると捉える。同様な言い回しを、私自身以前勤務していた小学校で幾度となく耳にした覚えがある。子どもたちの話し言葉の文体の中に、一つの場所を占めているものであり、このような意味での「～けど」を用いるスタイルは、話し言葉の文体の中から転移してきたものであると推測する。

こうした述べ方を冒頭部分でしたことと、その日の日記全体の総字数が増えることが直接つながらないという点は、ここでことわっておかなければならない。

⑨ その他

もう一つことわらなければならないことに、1月4日を区切りとしてN. W. 児の筆がぱったりと止まってしまった原因のことがある。この一連の研究の目的からすれば詳しく述べるべきことではないので、簡単に触れるだけにしておきたい。

○N. W. 児と担任との折り合いがあまりよくなかった。（ただし、4年生時の7月から、再び筆は動きだしている。信頼関係は後で取り戻されている。）N. W. 児は、4月末以来、度々「かくことがない」と訴えている。はじめのうちは、担任も書く内容についての助言を、日記の返事の中で書いていた。度重なるにつれ、助言がなされなくなった。

さて、研究の目的に立ち戻り、上記のことの「逆」を考えてみることにしたい。それは、あながち無意味なことではなかろう。つまり、次のような点に留意しながら子どもたちに対していくことが肝要であると考えるのである。

○子どもとの信頼関係を何よりも大切にする。それを築くためには、まず日頃の日記の返事をこまめに書くことから始まる。殊に、「かくことがない」と訴えてきた時は、慎重に対処する。その子の生活に即した題材の見つけ方を、根気よく助言していく。N. W. 児の場合、筆がぱったりと止まってしまう前兆として、

- ①「かくことがない」という記述が頻繁に出てくるようになる
- ②日付を書くことを忘れたり文字が乱れたりすることが多くなる
- ③日記を書かない日が度重なるようになる

といったことがあった。教師は、そのようなサインを見落とさないようにしなければならない。

そのように接していくことで、少なくとも子どもたちは書く営みを続けていくであろうし、その継続が基盤となって、書く内容の盛り上がりも期待できると考える。

注

- 1) 拙稿「児童の日記に見られる述べ方についてⅠ——N. W. 児の1年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して——」、『表現研究』第59号、1994年3月、表現学会発行、及び「児童の日記に見られる述べ方についてⅡ——N. W. 児の2年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して——」、『表現研究』第61号、1995年3月、表現学会発行を参照されたい。
- 2) 石森延男他監修・著作、『国語三上 わかば』、1985年3月31日文部省検定済版、光村図書発行に所収。
- 3) いずれも、新村出編、『広辞苑（第四版）』、1991年11月15日、岩波書店発行、による。

—平成7年10月2日 受理—